

pure monologue

# 谷ノ上朋美 一人芝居

「ゆんたくしまししょうね」  
公演のご提案

平和学習

沖縄戦

一人芝居

## ABOUT THIS PERFORMANCE

### 「知識」ではなく「体験」として残る 平和学習の新しいかたち

#### ■対象

中学生以上を推奨

#### ■上演時間

本編 約75分 + アフタートーク15～60分（調整可能）／合計：約90分～  
※質疑応答・グループワーク対応可

#### ■費用

公演費用は、会場条件・人数・内容により異なります。  
交通費・宿泊費（大阪より2名分）を別途いただきます。  
※ご予算に応じたご提案も可能ですので、お気軽にご相談ください。

中学校・高校・大学での学校公演 全国各地で実施  
沖縄修学旅行の事前学習/事後学習にも対応しています  
行政主催の平和・人権啓発事業としてもご活用いただいております

#### 電話受付窓口

株式会社プランニングハウス・ウエスト

TEL：06-6223-7776（平日10:00～16:00）

#### ピュアモノログ事務局

mail：contact@puremonologue.com



HP



PV視聴

# 作品介绍とあらすじ

## ■本公演について

本作品は、谷ノ上朋美自身をモデルとした、ほぼ実話の一人芝居です。単なる知識としての演劇鑑賞ではなく、「体験として記憶に残る学び」を目的としています。演劇を通して観客一人ひとりの内面に問いを投げかけ、「命」「生きる意味」「他者とのつながり」を考える機会を創出します。平和学習にとどまらず、命の価値の再認識・自己肯定感の回復・他者への感謝・学びを他者へ伝える行動へとつながる、総合的な教育プログラムとして好評をいただいています。

## ■あらすじ

沖縄出身の母と大阪出身の父を持つ主人公「わたし」は、沖縄戦で家族をすべて失い、たった一人生き残った祖母のことを知ろうとする。しかし祖母は戦争の記憶を語ろうとしない。

「わたし」は沖縄戦跡ガイドツアーに参加し、現地を巡りながら戦争の歴史を辿っていく。その中で、「わたし」の意識は次々と当時の人々へと入り込み、戦争の過酷さを追体験していく。

ひめゆり学徒、軍人、ガマの中の母親——それぞれの立場で生きた人々の感情と、自分自身の人生の苦しみが重なり合う中で「わたし」は問い続ける。「生きるとは何か」「命とは何か」。それは、戦争を知ることを通して、自分自身を知っていく物語でもある。

戦争体験者が少なくなっていく今、体験者から話を聞いた者が、自らの物語として芝居で語り継ぐ。それは、次世代への記憶のバトンを渡す、新しいかたちの継承です。



# 「ゆんたくしまししょうね」ならではのポイント

## ■この物語が届く理由

本作品の主人公「わたし」は、沖縄にルーツを持ちながらも、沖縄に住んだことのない谷ノ上朋美自身を重ねた人物です。

「わたし」は沖縄戦のことを何も知らないところから、少しずつ知っていく。

だからこそ、同じように沖縄のことをよく知らない沖縄県外の人を観る時、主人公と一緒に知り、感じ、問うという体験ができます。

「他人事」ではなく、自分ごととして自然に心を重ねやすいのが、この作品ならではの特徴です。

ご観劇いただいた多くの方が「自分ごととして心が動いた」と感想を寄せてくださり、好評をいただいています。

## ■一人芝居という、唯一無二のスタイル

一人の演者がすべての登場人物を演じる一人芝居は、演劇の世界でも珍しいスタイルです。

複数人の劇では役者ごとに人格が分かれていますが、一人芝居では同じ一人の人間が、ひめゆり学徒にも、軍人にも、ガマの中の母親にもなっていく。

役と役の「境界」が溶けることで、観客はそれぞれの人物を「他の誰か」ではなく「わたし自身」のように感じやすくなります。

また、脚本は1994年から続くOMS戯曲賞を最年少・女性初で2年連続受賞し、現在は同戯曲賞の最終選考審査員を務めている樋口ミュ氏（PlantM）が手がけています。

その芸術性の高さは演劇人からも高く評価されており、「演劇鑑賞」としても見応えのある作品です。一人でこれほどの世界を表現できるのかという驚きと感動が、観客の心に深く刻まれます。

フットワーク軽く、劇場以外でも、体育館・講堂・公民館など会場を問わず対応できるため、予算に合わせてイベントを企画できると、好評をいただいています。



# ご感想

“

一人芝居を見るのは初めてで、どのようなものなのか、理解できるかなど少し不安に思っていました。ですが舞台が始まった瞬間にその不安は消え、一気に谷ノ上さんのお芝居に引き込まれました。

今までは原爆が落とされた広島・長崎に関する平和学習が多く、沖縄戦について深く学ぶことはあまりありませんでした。ですが今回の舞台で、沖縄でも多くの被害や犠牲が出たことが分かりました。

谷ノ上さんのお芝居を見ることで、実際に戦争を体験したことのない私でも、当時の過酷さ、残酷さがありありと想像されました。

特に、おばあが家族一人ひとりの名前を読み上げる場面が印象に残っています。今自分が生きているのは当たり前ではなく奇跡なのだと感じました。

もし今日が人生最後の日だったら、家族や友達に感謝を伝えたいです。

(学校公演)

“

今まで複数人でする演劇は見てきましたが、一人芝居は初めて見ました。

「一人なので伝わりづらい部分があるかも」というお話でしたが、小道具を使ったり、声色や表情の変化からそれぞれの登場人物になりきっておられて、役の違いがとても分かりやすかったです。

また最後の挨拶で「人は生きているだけで意味や価値がある。それを伝えるためにこのお芝居をしている。」というお話にとっても感動しました。

これまで「人は生きているだけで価値がある」という言葉を聞いても、心のどこかで本当だろうかと思っていました。

ですが今回、人生の中で人は必ず誰かに影響を与え、また誰かから影響を受けて変わっていきけるのだと知り、改めて生きる意味を考えさせられました。

私自身、誰かに良い影響を与えられる人間でありたいし、人との出会いを大切にしたいと思います。

(学校公演)

# ご感想

“

「復帰」の年に大阪に生まれた谷ノ上朋美のひとり芝居。彼女の人生が「復帰50年」そのものである。この芝居を演じることで、彼女は自分自身を再発見し、沖縄を真に発見した。

沖縄を発見するとは戦争と平和を考えることである。死者たちの「殺すな」「殺されるな」「忘れるな」という声が聞こえる。

迫真のひとり芝居をぜひ多くの方々に観ていただきたい。

君島東彦（きみじま あきひこ）  
立命館大学国際関係学部教授。  
専門は憲法学、平和学。  
日本平和学会会長（2016-2017）。  
国際NGO「非暴力平和隊」の設立・運営にかかわる。  
2007年から毎年ノーベル平和賞の候補者をノミネートしている。

“

「戦争」について今まで、今日の今まで、怖い、よくない、戦争はもう嫌だ、、、そんな漠然とした思いだけでした。知らない私から、知った私へと変わった日でした。知ったと言っても、数パーセントにも満たない程度にすぎない。約70分の芝居の中で「命」について深く考えさせられました。

みんな生きたかった。生きて！死なないで！死んだらとぎれて、終わってしまう。自分が、家族が今を生きている事は、けして当たり前ではない、生きていることが、こんなにも温かく幸せで尊いこと、、、娘を抱きしめたくまりました。家族みんなに生きていてくれてありがとうございますを伝えたいと思いました。伝えます！

エネルギーのかたまりのお芝居、伝え様と思って、そして、伝えてくれて本当にありがとうございます。私も繋げていきます！人は忘れる生き物。でもあきらめない！私も平和の為に出来ることをやっていきます。”おばあ”ありがとうございます。

（一般公演 30代女性）

# 公演実績

一人芝居「ゆんたくしまししょうね」は、学校公演・平和学習・人権啓発事業として、全国各地で上演を重ねています。

## 学校公演実績

- ・2022年12月 立命館大学
- ・2023年10月 三重県立川越高等学校
- ・2024年03月 大阪府枚方市立枚方中学校
- ・2024年06月 大阪府枚方市立枚方中学校
- ・2025年05月 大阪府富田林市立第三中学校
- ・2025年05月 大阪府富田林市立金剛中学校
- ・2025年07月 大阪府富田林市立第二中学校
- ・2025年08月 大阪府富田林市立明治池中学校
- ・2025年10月 島根県立大学
- ・2025年11月 龍谷大学附属平安中学校
- ・2025年11月 大阪府富田林市立葛城中学校
- ・2026年02月 大阪府富田林市立藤陽中学校

富田林市では、沖縄修学旅行に向けた事前・事後学習の取り組みとして、教育委員会主催のもと市内中学校で継続的に実施されています。

また、複数回実施している学校もあり、単発の鑑賞機会にとどまらず、平和学習を深める継続的な取り組みとして導入いただいています。

## 平和講演会実績

- ・2025年6月 沖縄県うるま市立伊波小学校
- ・2025年9月 大阪府堺市立宮山台中学校
- ・2025年11月 大阪府富田林市立小金台小学校

## 行政主催 平和・人権事業での実績

学校公演に加え、行政主催の人権の集い、平和事業、地域事業などでも多数上演しています。

大阪府：富田林市、堺市、守口市、京都府：福知山  
鳥取県：大山町 奈良県：宇陀市、吉野町など  
沖縄県：沖縄県教職員組合（島尻支部・宮古支部）  
など

## 公演実績

公演回数は2026年3月時点で86公演。

そのうち、沖縄県でも各地で公演を重ねており  
南城市、那覇市、沖縄市、読谷村、宮古島、などで  
23公演の実績があります。

# メディア掲載実績

沖縄タイムス

琉球新報

読売新聞

朝日新聞

中國新聞

信濃毎日新聞

その他、多数

27 社 会 1版 2022年(令和4年) 6月15日 水曜日

## 戦後77年

### 祖母を前に「戦争」演じる

谷ノ上さん一人芝居

母が沖縄出身の舞台俳優、谷ノ上朋美さん(49)が那覇市内で演じた一人芝居を、沖縄戦で家族全員を失った父親の祖母又吉勢子さん(浦添市)が12日、観覧した。谷ノ上さんは「命や平和の大切さを伝えたい」と舞台への思いを語り、勢子さんは戦争は怖いからと「愛着を込め、争は怖いから」と愛着を込め、

芝居は、祖母から命が繋がれていることを痛感した谷ノ上さんが、沖縄を学ぶ中で沖縄戦を体験し、戦争や自分自身を知っていく物語。9日から12日まで那覇市内で上演した。自身は大出身。これまで人権問題をテーマとした舞台に取り組んできた。

数年前、糸満市摩文仁の「平和の礎」に母と祖母と3人で行った時、命の尊さを痛感した。「おばあちゃんが戦死を生きた抜いて命をつないでくれたから、今の自分がいる。今生きているのって奇跡だな。そこから舞台制作が始まった。

何度も沖縄を訪ね、ガイドの案内で戦場のテレビリガマなどの戦跡を見た。塚の中の空気が岩がこぼれていた。ここで埋れていたの。現場でしか感じられないものを、

「命の大切さに思い込め」

谷ノ上さんは「戦争をくり返した人がいることを忘れてはいけない。半分沖縄、半分大阪の私だからできることがある。沖縄のことをもっと知ってほしい」と語った。

15、16日は午後7時から沖縄市のシアター・トゥで上演する。県外にも公演を予定していくつもりだ。問い合わせは谷ノ上さんの公式ホームページから。

(社会部・高松 聡)

2024年(令和6年)6月23日(日曜日)

## 沖縄の惨禍

### 継ぐ一人芝居

#### 家族全員犠牲 祖母の体験基に

大阪の俳優

「戦後77年」をテーマにした一人芝居「戦争」を演じる谷ノ上朋美さん。祖母の体験を基にした作品で、命の大切さを伝える。

谷ノ上さんは「戦争をくり返した人がいることを忘れてはいけない。半分沖縄、半分大阪の私だからできることがある。沖縄のことをもっと知ってほしい」と語った。

15、16日は午後7時から沖縄市のシアター・トゥで上演する。県外にも公演を予定していくつもりだ。問い合わせは谷ノ上さんの公式ホームページから。

(社会部・高松 聡)

## 演じる者も見る者も 心に届く

中学校教員 河野 智行 (大阪府 56)

顧問を務める演劇部がはじめについて考える劇を上演した。部員は多く、このことを感じながら酷い役、辛い役を演じた。見た生徒の反響からも演劇はストレートに心を動かす力があると感じた。

府内約20の中学演劇部が参加する演劇祭に我が演劇部の演目は沖縄戦と考えていた。事前の勉強に、大阪を中心に活動する俳優の谷ノ上朋美さんの沖縄戦を題材にしたひとり芝居を見た。家族を失い、1人生き残った祖母の体験をもとに谷ノ上さん自身をモデルにした「私」が沖縄戦の足跡をたどり、その過酷さを追体験する。芝居は、反戦よりむしろ命の大切さを訴え、まっすぐ心に響いた。

演劇部は6月15日、演劇祭で沖縄戦を描いた独自の作品を上演した。谷ノ上さんの芝居を演劇祭の1週間前に見た部員たちは、本番はもちろんだ、練習を通じて沖縄戦を経験された方の苦しみや戦争の悲惨さ、そして命の尊さを感じ、見てくれる人たちに伝えてくれたと思う。2000人を超える他校も含めた生徒や保護者の反応と、やり切った14人の部員の表情を見てそれを確信した。

そして教員として学ぶ

【戦世77年】命大切さ・平和の尊さをひと...

戦世から77年 平和の尊さを伝えるひとり芝居

のぶチャンネル #74 「俳優・谷ノ上朋美さん...」

谷ノ上朋美さんと ゆんだく

被災地を支援 芝居と歌のチャリティー公演

能登半島地震やハワイのマイ島へ義援金

俳優 谷ノ上 朋美さん

祖母が経験した沖縄戦の記憶 ひとり芝居を上演

# プロフィール



## 俳優・講演家・カウンセラー：谷ノ上 朋美（たにのうえともみ）

短期大学卒業後、演劇活動を開始。  
人権をテーマにした一人芝居の先駆者・新屋英子に師事し、全国を巡演する。

その後、身近な人の役に立ちたいとの思いから舞台を離れ、30代で看護師免許を取得。  
ALSや筋ジストロフィー、がん患者の看護に携わる中で、自身も甲状腺がんを経験し、  
「生きるとは何か」を深く問い直す。

看護師退職後は、漢方不妊カウンセラーとして西洋医学・東洋医学・心理学を統合した  
カウンセリングを実践し、相談件数は2万件を超える。

2017年より演劇活動を再開。自身の体験と医療・カウンセリングの現場で出会った声をもとに、  
いのち・平和・人権をテーマとした一人芝居を創作し、全国で公演を続けている。

一人芝居という独特な表現方法で自分自身の体験や出会った人々の経験から創作された舞台は、  
真っ直ぐに心に響く舞台として共感を呼び、各作品ともに全国で再演を重ね、  
演劇を通して「いのちの尊さ」「平和」「人の尊厳」を見つめ直す機会を届けている。大阪府出身。



## 脚本・演出：樋口 ミユ（ひぐちみゆ） PlantM

19歳で劇団Ugly duckling旗揚げ以降、解散までの劇団公演32作品の戯曲を執筆する。  
OMS戯曲賞 最年少・女性初2年連続受賞。2019年より最終選考審査員を務める。  
2024年より地域創造リージョナルシアター派遣アーティスト。

現在までに、数多くの一人芝居の脚本を手掛け、  
舞台・ラジオドラマ・ワークショップなど全国で活動。  
障がい者・生活保護受給者・子どもたちへの演劇活動も行う。

芸術性の高さは演劇人からも評価が高く、独特の世界観で見ごたえのある作品を多数輩出している。

## ■当日の流れ(午後公演の例)

09:00~12:30	搬入・設営・場当たり
12:30~13:30	休憩・開演準備
13:30~14:00	開場
14:00~15:30	開演（※時間は調整可能）

本編は約75分です。

アフタートークは15分~60分程度で調整可能です。

全体では、最低90分程度のお時間をお願いしております。

また、ご希望に応じて、質疑応答やグループワークを取り入れることも可能です。

事前学習用の動画もご用意しております。

開場後から本番までの間にご視聴いただけますと、より深く舞台をご覧いただけるかと思えます。

YouTube→ <https://youtu.be/yRRXzK-MBOY>

## ■主催者様側にご準備いただくもの

劇場や舞台専用ホールなどでない場合には、以下をご用意していただけると助かります。

- ・延長コード（10m~20m）×2本
- ・長机1台（照明操作用）
- ・控室1室

出演者が開演まで待機できる場所をご用意ください（来場者と動線が分かれる場所が望ましいです）

詳細な準備マニュアルは別途ご用意しております。まずはお気軽にお問い合わせください

## ■お問い合わせ

お問い合わせは、お電話・メール・HPよりお願いいたします。

（電話受付窓口）株式会社プランニングハウス・ウエスト  
TEL：06-6223-7776（平日10:00~16:00）

ピュアモノローグ事務局  
contact@puremonologue.com

株式会社ピュアモノローグ（公演依頼ページ）  
<https://www.puremonologue.com/request>



公演依頼ページ



HP



谷ノ上朋美  
公式ライン